

1 学校名・教科型

三原市立本郷小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	48	53	50	50	57	66	324	25	349
学級数	2	2	2	2	2	2	12	4	16

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	専科	A	A	推進	B	B	専科	A	A	A	A	推進
5年2組 (担任：B)	B	専科	A	B	推進	B	B	専科	B	B	B	B	推進

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：C)	C	専科	C	C	推進	D	D	専科	C	C	C	C	推進
6年2組 (担任：D)	D	専科	C	D	推進	D	D	専科	D	D	D	D	推進

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

① 授業の質の向上

- ・ 系統的な指導の実現：一人の教員が同じ教科を担当することで、学習内容の系統性を意識した指導が可能になり、児童の理解が深まった。(例：外国語活動・外国語科において、学年間のつながりを意識した指導を実施)
- ・ 専門性を生かした授業づくり：教員の得意分野を活かした教科の担当（外国語科、理科、音楽科、社会科、図画工作科）を設定し、教材研究が深まり、児童の興味を引く工夫が増えた。(例：デジタル教科書の活用による視覚的支援)
- ・ 相互授業観察の実施：授業の空き時間を活用して教員同士が授業を見合い、指導改善に向けたフィードバックを行う機会を増やした。

② 多面的な児童理解

- ・ 日常的な情報共有の強化：放課後に教員間で児童の様子について情報交換を実施し、気になる点や頑張っている点を共有することで、個別支援に活かした。
- ・ 複数の視点からの児童理解：担任だけでなく、各教科の担当者も児童の学習態度や行動を観察し、多角的な視点で児童の成長を把握することができた。

③ 中学校の円滑な接続

- ・ 逆向き設計での指導：中学校までに必要な力を見据え指導を行った。小学校6年生から中学年までの授業を設計した。
- ・ 教科ごとの質問対応の促進：児童がわからないことを教科担任に直接質問する機会を増やし、学習の定着を支援した。
- ・ 学習習慣の移行サポート：長期休暇の課題を教科ごとに担当教員が作成し、児童が教科ごとの学習習慣に慣れる機会を提供した。(例：理科のプリント集を作成し、基礎学力の補充を実施)



<成果>

① 授業の質の向上

- ・ 教材研究の充実：担当教科が限定されることで、教材研究に十分な時間をかけることができ、授業の質が向上した。

【児童アンケートの結果より】

	6月【肯定的回答】		2月【肯定的回答】
教科担任制になってよかったですか。	93.0%	➡	99.5%
教科担任制で学ぶことで授業の内容がわかるようになりましたか。	94.7%	➡	95.7%

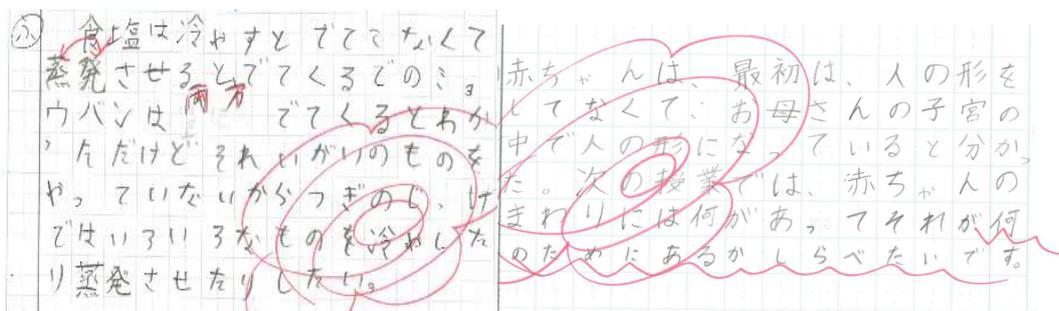
～その理由～

- その教科にくわしい先生が教えてくれるのでわかりやすく理解できたから。
- 先生によって教え方がいろいろあって授業が楽しかったから。

- ・ 指導・評価の統一：クラスによる指導や評価のずれが減り、学年間の統一性が確保された。
- ・ 授業力向上の相乗効果：教員同士で授業を見合うことで、指導方法の改善につながり、全体的な授業力の向上が見られた。



- ・授業の課題を分析し、改善につないだ。



次時の課題設定へ

〈児童のふりかえりから〉

○今日は、花粉をけんび鏡で観察したけど、ぼやけていてよく見えなかった。だから、次はもっとけんび鏡の使い方を練習したい。



〈課題〉

顕微鏡の正しい使い方（既習事項）の定着が不十分なため、本時で活用できない。



〈他のクラスで改善〉

観察の前に、顕微鏡の使い方を短時間、練習させてから、花粉の観察をした。

② 多面的な児童理解

- ・ 学年間・専科との連携強化：児童理解を担任一人で抱え込まず、学年間や専科の教員と共有することで、より適切な支援が可能になった。
- ・ 生徒指導の一貫性の確保：課題のある児童に対し、教科を越えて共通した指導方針をとることができ、指導のブレが減少した。
- ・ 肯定的な関わりの増加：児童の努力や成長を教員間で共有することで、肯定的な声かけが増え、児童の自己肯定感の向上につながった。
- ・ 児童の相談先の多様化：担任以外の教員とも日常的に関わることで、児童が気軽に相談できる教員が増え、安心して学校生活を送ることができた。

	6月【肯定的回答】	2月【肯定的回答】
教科担任制で学ぶことで、いろいろな先生と話す機会が増えましたか。	89.7%	98.7%
教科担任制で、わからないことや困ったことを相談する先生が増えましたか。	77.3%	96.4%

～その理由～

- たくさんの先生との関わりがあったのでいろいろな話ができよかったから。
- 相談にのってもらったり、話を聞いてもらったりできる先生が増えたのでよかったから。

③ 小・中学校間の円滑な接続

- ・ 教科ごとの質問習慣の定着：児童が各教科でわからないことを担当教員に質問する習慣が付き、中学校での学習スタイルにスムーズに適応できる基盤ができた。

	6月【肯定的回答】	2月【肯定的回答】
中学校から教科ごとに先生が変わること に対して不安がなくなりましたか。	89.5%	99.9%

～その理由～

- 中学校になっても同じ授業スタイルだと思うから。
- 教科ごとに先生が変わる中学校の勉強のスタイルに慣れて、不安なことがなくなったから。



<課題>

① 授業の質の向上

- ・ 技能系教科の指導難易度：音楽や図画工作などの専門性が求められる教科では、指導に課題を感じる教員がいた。
- ・ 児童の学習理解の個人差：教科担任が授業を進める中で、限られた時間内において児童ごとの理解度の差を埋めることができず、きめ細かな指導が難しい場面があった。

② 多面的な児童理解

- ・ 生徒指導の即時対応が困難：担任が他クラスで授業をしている際、緊急の生徒指導への対応が遅れることがあった。
- ・ 教員ごとの指導方針の違い：教員ごとに授業の進め方や指導の方法が異なるため、児童が戸惑う場面が見られた。

③ 中学校の円滑な接続

- ・ 児童の質問のしやすさに個人差：教科ごとの担当が変わるため、児童によっては質問しにくさを感じる場面があった。

④ 教師の負担軽減

- ・ 行事時の負担の偏り：音楽発表会などの行事では、特定の教員に負担が集中する傾向があった。



<対策>

① 授業の質の向上

- ・ 専門教科の研修充実：技能教科の指導力向上のため、講師を招いた研修を実施し、教員の指導スキルを向上させる。
- ・ 教材研究の時間確保：定期的に教材研究の時間を設け、効率的に準備を進められる環境を整える。
- ・ 児童の理解度の把握強化：授業中の個別対応を意識し、学習状況を記録・共有することで、支援の質を向上させる。

② 多面的な児童理解

- ・ 生徒指導の緊急対応体制の確立：担任が対応できない場合のバックアップ体制を整え、緊急時の対応をスムーズにする。
- ・ 授業ルールの統一：学年間で指導方針を統一し、児童が混乱しないよう配慮する。

③ 中学校の円滑な接続

- ・ 質問しやすい環境づくり：授業後に質問時間を設ける等、児童が気軽に相談できるようにする。

④ 教師の負担軽減

- ・ 行事の負担分散：行事の指導を複数の教員で分担し、負担を軽減する。